

校長研修だより25

生徒指導ハラスメント（中高ハラスメント研修より抜粋）

2021・9・21 重枝 一郎

1 生徒指導チェックリスト

- 生徒指導に対して「こうあるべきだ」「こうすべきだ」と考える傾向にある
- 物事は白か黒かはっきりさせたい
- 自分は正しいので、生徒にはあやまらないようにしている
- 自分が思っていることや気持ちを表現しないで我慢することが多い
- 「なんでできないの？」等、否定的な表現をよく使う
- 人の気持ちより、正しいかどうかの理屈の方が大切だと思う
- 生徒が悪いのであれば、体罰をしても仕方がないと思う
- 仕事や私生活でのストレスが高い状態にある。あるいはよく眠れない

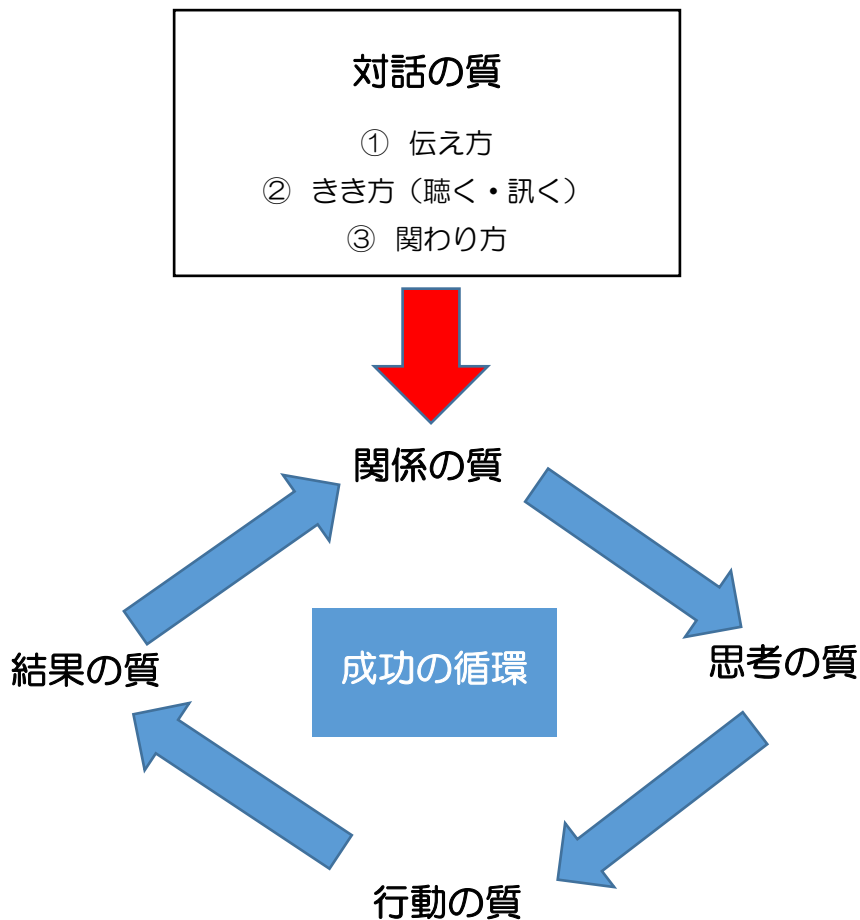
2 適正指導の範囲をこえる可能性の高い言動チェックリスト

- 相手の意見や言い分を一切受け入れず、自分の価値観だけで一方的にダメ出しをした
り、相手を否定したりし続ける
- 指導の注意にとどまらず、相手の性格や癖など人格を問題にする
- 感情的に大声を出したり、理不尽な要求や指導をしたりする
- 相手の立場や環境をまったく考慮に入れずに叱る
- 必要もないのに繰り返し何度も何度も同じ叱責を繰り返す

3 指導のポイント

- ◆ 生徒は成長とともに感情は安定していくことを認識する
- ◆ あらかじめの「約束」をしておき、「約束を守る」という次元で指導する（開発的生徒指導）
- ◆ 「人」ではなく、「問題点」を注意するという意識
- ◆ どの行動がどのように問題なのかを具体的に指導し、改善方法も具体的に指摘する。その際、話を聞きながら、対話しながら、厳しい叱責・指導の後は精神的なフォロー
- ◆ 時間の長さ、回数は、嫌がらせとを感じるような時間や回数はNG。しばらく様子を見るか指導を繰り返すか分けて対応
- ◆ 話すより話させて考えさせる（コーチング）
- ◆ 生徒や相手の良い点に関心をもち、ほめる
- ◆ 「○叱る＝教育的、×怒る＝感情的」「×詰問＝黙る・言い訳、○質問＝振り返り・引き出す」

4 対話の質を高める



今号は、「教職員ハラスメント研修」の動画内容になります。職員朝礼でもアナウンスしましたが、生徒指導研修につながる内容になっています。その講義の中で、上のような図が出てきたと思います。私自身も「集団作り」「学力向上」の研修等でよく活用していた図です。本講義では、まずは**対話の質**を高めることが重要であると言っています。

ちなみに、上の図は、マサチューセッツ工科大学のダニエル・キム教授が提唱している「成功の循環」と言われているものです。「成功の循環」は、『**関係の質が高まると思考の質が高まる。そして、思考の質が高まると行動が積極的になり、行動の質が高まる。それが継続されると、当然、結果の質が高まる**』という因果関係を示しています。これは、行事の取組、部活動、教科での学び合い等からもわかります。私自身、特に生徒にこのことを強く意識させていました。もちろん職員集団にも。

このように、集団で何かを行う場合、結果を出すためには回り道のように思えても、まず人間関係の質を高めることがスタートです。こう考えると、学校教育でも仕事でも、人が学ぶべきことは、「人間関係」の在り方なのかもしれません。そして、個人に求められるのは、「人間性が高まる瞬間」をたくさん体験し、人間としての器を大きくしていくことだと思います。

まだ視聴されていない先生は必ずご覧ください。【学院として必須になっています。9月末までになっています】